

知識集約型社会を支える人材育成事業（メニューⅠ・Ⅱ） 中間評価  
現地調査実施要領（案）

令和4年 月 日

知識集約型社会を支える人材育成事業委員会決定

1. 目的

現地調査は、知識集約型社会を支える人材育成事業委員会（以下「委員会」という。）委員等が採択事業計画を実施する大学に赴き、事業責任者等との質疑応答、学生との意見交換、教育現場の視察等を行うことにより、進捗状況等を的確に把握し、評価に資することを目的とする。

2. 実施主体

実施主体は、委員会とする。

3. 実施方法

調査者が現地に赴き、書面評価に基づき事前に示す質問事項を中心に、評価項目に沿った事業計画の進捗状況等についての説明等を受けるとともに、質疑応答や事業参加学生との意見交換、教育現場の視察等を行う。ただし、委員会の判断により、ウェブ会議システムの利用など、社会情勢を踏まえた代替措置を以て行う場合がある。

4. 参加者

[調査者]

委員3名程度

[大学側対応者]

- ・ 全体責任者（学長）（必要に応じて同席）
- ・ 事業計画責任者
- ・ 事業担当者
- ・ 学生（事業プログラムに参加している学生）
- ・ 関係教員・職員（必要に応じて同席）
- ・ 事務局（必要に応じて同席）

また、担当プログラムオフィサー（以下「PO」という。）は現地調査に原則として立ち会うものとし、採択大学の支援者として参加する。必要に応じて、各大学の取組状況等に係る大学の説明に関する補足等について発言するものとする。

5. 所要時間（予定）

3時間半程度

6. 実施項目及び内容

(1) 事業責任者等からの説明・質疑応答（60分程度）

調査者は、事業計画責任者等から事前に示した質問事項への回答を中心に、評価項目にそった事業計画の進捗状況等についての説明等を受け、その内容を基に質疑応答を行う。

(2) 学生との意見交換（60分程度）

調査者は、学生と意見交換を行い、当該事業計画による教育の成果等について確認する。

(3) 教育現場・施設等の視察（30分程度）

調査者は、大学からの説明を受けながら教育現場や関連施設を視察し、調査を行うとともに、当該事業計画による教育や支援の現状について把握する。

(4) 講評（5分程度）

調査者は、調査終了時に講評を行う。

(5) その他、調査者が必要と判断する事項

7. 現地調査スケジュール（例）

以下のスケジュールは一例であり、実際の調査内容等により異なる。

【13時30分～16時30分を調査時間とした場合】 ※各事項には移動時間も含む。

調査時間	事項	所要時間
13:00	調査者、現地到着	—
13:00～13:30	打合せ（調査者のみ）	30分
13:30～14:30	事業責任者等からの説明・質疑応答	60分
14:30～15:30	事業参加学生との意見交換	60分
15:30～16:00	教育現場・施設等の視察	30分
16:00～16:25	打合せ（調査者のみ）	25分
16:25～16:30	調査者による講評	5分
16:30	現地調査終了	—

8. 現地調査実施後

(1) 調査者は、現地調査によっても明らかにならなかった点、あるいは新たに生じた不明点等がある場合、評価上の必要に応じて、大学等に対し書面による説明を求め、また追加資料を提出させることができる。

(2) 調査者は、書面評価及び現地調査を踏まえて総括評価（案）を取りまとめ、委員会に報告する。